

R6 玉垣小学校 学校経営の改革方針

◎令和6年度玉垣小学校 目指す学校像

1. 教育目標が目に見える姿として現れる学校
2. 心が通い合う温もりや信頼のもと、人と人とのかかわりを築く学校
3. 教育への使命感と責任感のもと、協働と研鑽で充実した教育を推進する学校
4. 保護者、地域と連携して子どもを育む学校

学校教育目標

やさしく たのしく げんきよく きらりかがやく 玉垣小

何のために

基礎学力の保障と
学びの場の創造

豊かな心を育む活
動の推進

健康でたくましく
生きる力の育成

鈴鹿型コミュニテ
ィスクールの推進

重点的に何 をするか

- 「伝え合う・聴き合う」に焦点を当てた校内研修の推進
- 学調・みえスタの分析をもとにした学力向上対策の推進
- ICT を活かした「わかる授業」の推進
- 主体的に取り組む家庭学習の推進
- 読書活動の充実（朝読、図書館活用、読み聞かせ、家庭読書等）
- 日本語指導の充実（JSL パドック等の活用）

- 「仲間づくり」を中心にした人権教育の推進
- 特別支援教育の推進（支援会議の充実と学校・保護者・関係機関との連携強化）
- 配慮が必要な児童の早期支援体制の構築
- チーム担任制をもとにした非認知能力の育成
- 多文化共生教育の推進
- いじめ、不登校、虐待等の組織的対応の徹底（特に初期対応）

- アロハ運動をもとにした基本的生活習慣の定着化（挨拶、廊下歩行、履物揃え）
- 体力づくりと食育、健康教育の推進
- 環境保全と命の大切さを学ぶ学習機会の充実
- キャリア教育の推進（年間加わりム作成、未来応援人・地域や企業の人材活用）

- 熟議を中心とした学校運営協議会の開催と取組の発信
- 学習・図書ボランティアの充実
- 子どもの安全・安心を中軸に地域、関係機関との連携強化
- 信頼される学校を目指すための学校評価の実施と、地域との協働の推進

R6 学校経営基本方針

- 1 「幸せな教職員」が「幸せな子どもたち」をつくる
- 2 普段が大事（毎日の日々の指導にこそ力を入れる）
 - 授業づくり**・・・①贅沢なフランス料理よりも日々のお惣菜料理の充実を（わかる・楽しい授業，子どもの意欲をくすぐる授業を）
②授業の中で生徒指導も人権教育も
③主体性を高める授業の工夫（教師自身の主体性，振り返りの場等）
④協働的な学びの中での個別最適な学び（自己選択させる場等）
 - 学級づくり**・・・①子どもとの信頼関係の構築（「受容・共感」と「確かな導き」）
②自己肯定感を高める集団作り（勇気づけ，価値づけ，笑顔）
③「ありがとう」が飛び交う集団作り
④発達障がい等すべての子どもの対応に特別支援教育の手法活用
- 3 チーム担任制（学級担任だけでなく，学年の教員全員で指導・支援）
（子どもへの指導，保護者対応，交換授業、TT 授業、合同授業、朝（帰り）の会・朝読（モジュール）・給食・掃除等の指導交換）
- 4 報告・連絡・相談（些細なことだと思いうことでも学年や管理職と共通理解）

※ 教職員の総勤務時間縮減に向けた取組

- ・ 目的は，子どもたちへの教育効果の向上（目的と手段を間違えない）
- ・ 留守番電話の設置（18：00～7：30）
- ・ 月2回の定時退校日（その日がどうしても無理な場合，個人で別日を設定する）
- ・ ズレ勤務，変形労働時間等の柔軟な勤務体制の推進。
- ・ 校務を「やめる→減らす→変える」で削減する。
- ・ 目標
 - 1人当たりの月平均時間外労働 25時間以下（R5は32.1時間）
 - 年360時間を超える時間外労働者数 0人（R5は27人）
 - 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人（R5は168人）
 - 1人当たりの年間休暇取得日数 28日以上（R5は25.3日）
 - 設定した日の定時に退校できた職員の割合 70%（R5は62%）
 - 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 50%以上（R5は37.5%）

※ 不登校対策

- ・ 欠席情報，児童観察・家庭訪問等の情報共有
- ・ 担任と児童支援担当，養護教諭，SC，SLS，管理職，関係機関との連携
- ・ 自分の居場所がある温かい学級づくりと一時的な居場所「ほっとルーム」の活用